

第 1 回 静岡市清水地区 L R T 導入検討協議会

- 1 日 時 平成 2 4 年 1 2 月 1 3 日 (木) 9 時 3 0 分 ~ 1 1 時 3 0 分
- 2 場 所 静岡市役所 清水庁舎 3 階 第 1 会議室
- 3 出席者 (委 員) 川口会長、遠藤委員、小川委員、水島委員(代理)、
小股委員、春田委員、笠井委員、大井委員、齋藤委員、
柳沢委員、風間委員
(事務局) 小長谷都市計画部長、小林参与兼交通政策課長、
吉川統括副主幹、竹下主査、鏡味主任技師
- 5 議 題 (1) 静岡市の現状と L R T 導入の必要性
- 6 会議内容
(1) 開会
(2) 開会あいさつ
(3) 協議会の設立について
(4) 会員紹介
(5) 会長選出
(6) 議題説明
(7) 意見交換
(8) 閉会

○会長選出

会員の互選により、静岡文化芸術大学大学院 川口宗敏教授が本協議会会長に選出された。

○議題説明

(1) 静岡市の現状と L R T 導入の必要性

以下の事項を事務局より説明

- ・ 静岡市のまちづくりと交通のありかた
- ・ 静岡都心と清水都心のまちづくりを踏まえた、基幹となる公共交通の連携の必要性・考え方
- ・ 静岡型コンパクトシティのイメージ
- ・ 清水都心における現状と課題から導く L R T の必要性
- ・ 清水都心における L R T 導入のイメージ
- ・ L R T 導入効果 (富山市の事例)

○意見交換

～L R T整備の目的と清水における位置づけ～

- ・ L R Tは、清水に賑わいを創出するまちづくりのための手段である。日の出地区では新たな開発の動きがあるが、ここでも自動車や旅客航路とかかわりを含めた地域計画との連携が必要である。これが、L R Tの利便性と採算性を向上させることとなる。
- ・ L R Tを整備してもバス等の利用者が転移するだけでは、沿線の流入人口や交流人口が増加しない。L R Tを誰が何の目的で利用するのかといった、導入目的と機能を明確にする必要がある。
- ・ L R Tの建設費や需要予測、採算性などの数値を示す必要がある。このことは需要を増やす施策等を考えるためにも重要な指標となる。交通事業で採算を維持することは難しいが、この課題をクリアしないと市民のコンセンサスは得られない。

～ルート～

- ・ 清水ルートはどのような経緯で設定されたのか。かつての清水市内線のように清水橋を超えるルートは復活できないのか。
(事務局) L R Tの特徴を活かし、かつ導入効果が大きいたい観点から、JR 清水駅、新清水駅、日の出地区の3拠点を結ぶルートを基本とした。近年架けかえられた清水橋は勾配が急であるため、JR 清水駅東口に接続するルートを選定した。
- ・ 新清水駅の乗換はどのような形態となるのか。また、静岡鉄道静岡清水線もL R T化(低床車両化)するということか。
(事務局) 乗り換え無しで静岡鉄道と直通することが理想であるが、静岡鉄道のL R T化にはホームの低床化が必要であるなど多くの課題があり、昨年度の研究会でも結論が出ていない。ただ、新清水駅での乗り換えはできるだけシームレスとなる方法を考えている。